

東山の森だより

発行：なごや東山の
森づくりの会
発行者：滝川 正子
編集：中西 たかお
発行月：2004年12月
(年2回発行)

【第2号】

§ § 多様性の森づくりに想いと § §

なごや東山の森づくりの会副代表 眞弓浩二

春の冷たい雨がそぼ降る4月4日。山桜の下で桜守りの林先生の講話を聞いてから、早や半年が経過しようとしています。この間、毎月の定例会、運営委員会とあわただしく過ごしてきました。そして多くの会員の智恵と汗によって平和公園南部のハンノキ湿地は水を湛え、周囲の散策路から水面の鳥を伺えるようになりました。また、東山公園南部の天白溪湿地では4段の棚田がつくられ、湿地全体に流れが戻ってきました。ゆっくりとしたペースではありますが、かつての里山時代へ着実に近づいている様子を見るにつけ嬉しく感じています。里山保全に近道はない。そして正解もない。絶えず活動と検証を繰り返しながら進めていくことが大切だと、改めて思う今日この頃です。



さて、次のような調査結果があります。東山公園では、平成2年から12年までの10年間に、高さ10m以下の樹林地は減少し、逆に10m以上の樹林地が20.5%増加しているというものです。森の木が大きくなることを悪く思う人はいないでしょう。でも、このデータは他にも意味を持っています。一つは森の「高齢化」。次に森の「富栄養化」。そして森の「陰地化」です。

限られた森の中で、樹林の「高齢化」はすなわち若齢林の減少を指します。CO₂をたくさん吸い込んでくれる、生長力のある森づくりが必要です。樹木の落ち葉で養分が醸成される森の「富栄養化」は優占種の繁茂を助長し、生物の多様性を奪う原因にもなります。乾燥・貧栄養の尾根筋でしか生息できなかったウンヌケ・アキノキリンソウ・マツタケ（アカマツ菌根菌）などが姿を消していきます。「陰地化」というまでもなく光を好む落葉広葉樹の衰退を意味しています。「健全な森づくり」とは、一定の限られた森の中でいかに多様性を求めていくか、そのプロセスではないでしょうか。「東山の森づくり」には、単に植物の種類が多いということだけでなく、樹齢や樹高の多様性も求めていきたい。これは「健全な人間社会」にもあてはまる教訓と言えないでしょうか。いよいよ「東山公園南部のオアシスの森づくり」「森づくり講座“里山学校”の開催」「森づくりの会1周年記念イベント」「平和公園南部・暮らしの森基本構想づくり」など、名古屋市支援事業も始まります。今まで以上により多くの市民を巻き込みながら、また行政とのパートナーシップを築きながら、東山の森に多様性の森づくりが広がっていくことを期待しています。



協働：なごや東山の森づくりの会 名古屋市 (財)名古屋市みどりの協会

活動報告

定例会

2004年7月4日(日) 10:00~15:00 天候:晴れ 参加者:61名(内、子ども2名)

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会メンバーのフィールド訪問。

名古屋コミュニケーションアート専門学校の学生(長谷川明子さん引率)。

活動場所:天白溪湿地(東山公園南部エリア)

活動内容:2000年9月の東海豪雨での流出土砂によって消失した湿地の復元作業。02年5月、9月の復元作業に続くもので、棚田方式の5段目6段目での活動で、湿地を埋め尽くした土砂を土嚢袋に詰めて堰堤を築く。ヒメタイコウチ、ホトケドジョウ、シオカラトンボなど種々な生物が観察された。



ホトケドジョウ



2004年8月1日(日) 9:00~12:00 天候:曇のち晴

参加者:33名(内、子ども2名)

活動場所:ハンノキ湿地周辺(平和公園南部エリア)

なごや発掘・発信マガジン「Nagoya発」の取材を受ける。

活動内容:ハンノキ湿地北側(堤防下)の竹の伐採。

ハンノキ湿地上流部の溜池再生予定地での芝刈り。

周辺遊歩道のルート変更のためのロープ張り。

2004年9月5日(日) 9:00~12:00 天候:曇のち晴

7時半前後の激しい雨で心配されたが、活動開始の頃には好天でした。

参加者:24名(内、子ども1名)

活動場所:天白溪湿地(東山公園南部エリア)

活動内容:7月4日の活動では充分でなかった箇所修復復元作業。

土砂の取り除き、土嚢づくり、作った土嚢による堰堤の補強など。

オニヤンマ、ヒメタイコウチなど観察。



ヒメタイコウチ



2004年10月3日(日)

10:00~13:30 天候:雨

参加者:31名(内、子ども2名)

愛知住まい・まちづくりコンサルタント協議会から7名が参加。

活動場所:ハンノキ湿地周辺(平和公園南部エリア)

活動内容:ハンノキ湿地北側(堤防下)および西側の竹の伐採。

滝川代表より会員への再確認として「ハンノキ湿地再生計画」の説明があった。

2004年11月7日(日) 10:00~15:00 天候:晴れ 参加者:18名

活動場所:天白溪湿地(東山公園南部エリア)

活動内容:これまでに再生させた湿地が、数度にわたる台風関連の大雨によって土砂の流入、堰堤決壊などがあり、これの修復と導水路の改修など。

2004年12月5日(日) 10:00~15:00 天候:晴れ、強風

参加者:31名(内、子ども4名)

活動場所:ハンノキ湿地周辺(平和公園南部エリア)

活動内容:参加者全員で活動予定地の現状を見ながら作業内容の確認をした上で、遊歩道ルートへのロープ柵設置と草刈、ハンノキ湿地上流の溜め池再生のための土嚢づくりなど。タヌキの屍骸を発見。



その他の活動

☆なごや平和公園里山愛護会定例活動支援

2004年6月27日(土) 10:00~14:00 天候:晴れ 参加者:25名(内子ども2名)

活動場所:平和公園ハンノキ湿地西側

活動内容:増殖を続ける竹の除伐と切り出した竹の稈による柵づくり、ビートルズベッドづくりなど。

☆環境デーなごや2004

2004年9月19日(日) 10:00~14:00 天候:晴れ

活動場所:栄・久屋大通公園 もちの木広場

活動内容:パネル展示 チラシ配布。

・シュロの葉でのキリギリスづくり ・竹トンボづくり。

☆千種区民まつり「区民ふれあいフェスティバル2004」

2004年10月3日(日) 9:30~14:00

活動場所:平和公園 メタセコイア広場

活動内容:パネル展示 チラシ配布。

・「東山の森のチョウ」の標本展示と幼虫~羽化の観察指導(中島さん) ・竹切り、丸太切り体験。

・シュロの葉でのキリギリスづくり ・木の実・小枝のクラフト。



☆ハンノキ湿地の樹木調べ

2004年8月16日、9月11日、10月16日の3回

参加者:延べ人員 55名 (土曜日、9:30~12:00)

活動場所:平和公園 ハンノキ湿地周辺

活動内容:武田明正さんを講師として樹種調査の手法などを勉強した後、先生の指導でハンノキ湿地周辺の里山を構成している樹種の調査を行う。調査結果は後日何らかの機会を捉えて発表する。



☆千種生涯学習センター「トライアルサタデー」

2004年9月11日、18日、10月2日、23日(土曜日9:30~12:00 23日は13:00~15:30)

参加者:小中学生と保護者 15組(大人15名 こども18名)

活動場所:平和公園南部エリア、千種生涯学習センター美術室

活動内容:平和公園ではトラップ(わな)を3ヶ所に仕掛けて、どんな生物がいるのかを観察。また、森づくり(里山の維持管理)をテーマに除伐、枝打ちなど体験。最終日には、除伐した小枝や木の実を使っでのクラフトを楽しむ。



☆愛・地球博ボランティアフェスティバル出展

2004年12月4日(日) 11:00~16:00

活動場所:愛知県体育館

活動内容:パネル展示 チラシ配布。

一般ボランティア2万4千人を対象としたイベント。なごやの森づくりパートナーシップ連絡会と隣接ブースでPR。 入会申込5名。

運営委員会

日時:毎月第3木曜日 18:30~21:00

場所:千種スポーツセンター第一会議室 第7回(8/19)は名古屋市みどりの協会会議室

会議参加者:役員、運営委員、名古屋市、(財)名古屋市みどりの協会、その他。

議題:森づくり定例会及びその他催事の企画と結果報告。各種協賛事業、受託事業の結果報告。

活動拠点の開設、協働組織の要綱・協定書、オアシスの森整備計画、森づくり講座「里山学校」など事業計画の具体案検討及び進捗状況報告。

森の表情

里山は秋から冬へと様変わり

鬼頭 保

子どもたちのザリガニ捕りのはしゃぎ声が消えるころ、東山の森の里山も秋から冬へとその有様は日一日と移り変わっていきます。コナラ、アベマキなどのドングリの実が熟し始める9月。湿地では、サギソウ、スイラン、シラタマホシクサ、サワギキョウが開花の順番を待っていたかのように咲き始めていきます。そして、10月中旬ごろまでは、渡りをする事で知られる蝶、「アサギマダラ」がこの里山にも旅の途中に立ち寄り、体力を付けて再び南下する光景を目にします。前翅長 40~60mm の可憐な昆虫のどこにこんな力を持っている



のか、自然界の不思議さを感じさせます。

稍で、モズの縄張りを主張する甲高い鳴き声

が聞こえてきました。もうすぐ冬です。雑木林の茂みの中からは、渡りや山から降りて来た多種の鳥たちのさえずりが聞こえます。来春まで、その姿とともに私たちを楽しませてくれ、冬ならではの東山の森に触れることができます。都会の中にこんなすばらしい豊かな自然があることを、改めて感じさせられる季節でもあります。



今後の活動予定

定例会： 毎月第1日曜日（1月のみ開催日が正月3ヶ日に重なるため変更）

1月22日（土）東山公園南部	天白溪湿地	4月3日	平和公園	
2月6日	平和公園南部	ハンノキ湿地	5月1日	東山公園南部
3月6日	東山公園南部	天白溪湿地	6月5日	平和公園

集合場所、時間など詳細につきましては、その都度事前にメールなどで連絡致します。

里山学校： 12月2日~3月11日 計4回（定員35名）開催中

里山体験： 1月15日~30日 3回 葛の根掘り、葛粉・葛餅づくりを体験（定員25名募集中）。

協働組織「なごや東山の森づくりの会」 設立趣意書

東山の森、約410haは動植物園を含む東山公園と平和公園からなる、都市の中に残された貴重な緑の里山です。今でも春にはウグイスが鳴き、夏にはカブトムシが棲む豊かな森ですが、かつてはハッチョウトンボが舞い、キツネが子育てをし、ノウサギが跳ねる、そして人々の暮らしと密接に関わっていた、もっともっと豊かな里山でした。

20世紀、都市化の進展とともに里山は減少し、徐々に荒廃していきました。21世紀を迎えた今、私たちは、これまでの効率性至上の都市づくりやライフスタイルを反省し、森が与えてくれる生命感や安らぎ、さらに、都市の環境改善や防災の機能、エネルギー資源の可能性にも気づかされたのです。

私たち協働組織は、東山の森に棲む多くの生き物とともにあることを大切に、東山動植物園とも連携しながら、市民・NPO・企業・行政の協働による森づくりをおこないます。

そして、この森づくりを通じて、人と自然との共生の視点を育み、次世代を担う子どもたちに貴重な自然環境と森の素晴らしさを伝えていきます。

会員募集

人と自然のいのち輝く「東山の森づくり」に参加しませんか！！ 年会費：1,000円

入会申込・問合せ先：〔連絡幹事〕 鬼頭 保

Tel/Fax:052-751-9510 e-mail: kitou@sd.starcat.ne.jp

11月末現在会員数 187（個人：180 団体：6 企業：1）

編集後記 地球温暖化の進む中、大型台風の直撃や豪雨禍。異常気象のせいかわられる現象に悩まされた1年でした。豊かな緑と生物の多様性を取り戻すことの重要性和、そのための努力を続けることの大切さへの想いを強くしています。

広報幹事 中西たかお Tel/Fax:052-781-7530
e-mail: ntakao33@titan.ocn.ne.jp

投稿歓迎
森づくり、自然、環境への想い、会への意見など。
左記広報幹事へ